

試料・情報利用研究計画書(概要)					
研究番号	2026-1011	利用形態	共同研究		
研究題目	代謝スコアを主としたパラメータと背景因子との関連の研究			研究期間 (yy/mm/dd)	2026/9/16 ～ 2030/3/31
主たる研究機関	大阪大学ヒューマン・メタバース疾患研究拠点		責任者 氏名・職	武部 貴則 教授	
分担研究機関	東北大学東北メディカル・メガバンク機構		責任者 氏名・職	荻島 創一 教授	
研究目的と意義	東北メディカル・メガバンク計画地域住民コホートおよび三世代コホートにおいて取得した、血液検査、および全身背景因子の相関を解析することで、脂肪肝の診断を行い、関連する因子を明らかにすることでMASLDの危険因子の理解を深めることを目的とします。本研究により、MASLDの疾患進展に関与する新規リスク遺伝子を解明することで、MASLDの早期発見およびハイリスク群の予測精度向上が期待され、個別化医療や地域保健政策への応用につながる重要な成果が得られると期待されます。				
研究計画概要	代謝機能不全に関連した脂肪性肝疾患 (metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease: MASLD)は、肝細胞に脂肪が蓄積し、炎症や線維化を伴う脂肪性肝炎 (MASH)に進行、最終的に肝硬変や肝癌などの重篤な状態に至る肝疾患です。脂肪肝の存在を必須とするものであるが、心血管・腎・代謝疾患などのいずれかまたは複数を含併することが多い疾患群です。本邦では約30%の人々がMASLDを患っており、肝細胞癌や肝硬変の発生が増加していることから、その早期発見・ハイリスク群の予測は急務といえます。本研究では東北メディカル・メガバンク計画地域住民コホートおよび三世代コホートにおいて取得した、血液検査、InBody、握力、身体活動および全身背景因子の相関を解析します。FLI (Fatty Liver Index) を肝脂肪化の代替マーカー、FIB-4 Indexを肝線維化の代替マーカーとしてMASLDに関連する疫学的因子を明らかにします。また、疫学的検討に加えて、ゲノム情報を用いてGWAS解析等を施行し、肝脂肪化・肝繊維化に関連する、特徴的な遺伝子の特定などを目指します。これにより、MASLDの危険因子の理解を深めることを目的とします。				
利用試料・情報	対象： ☒ 地域住民コホート調査 ☒ 三世代コホート調査 ☒ 脳とこころの健康調査 ☐ その他 () 調査期間： ☒ ベースライン調査期間 ☒ 第2段階調査期間 ☒ 第3段階調査期間 ☐ 第4段階調査期間 ☐ アドオン研究 試料：最大()人分 ☐ DNA ☐ 血漿 ☐ 血清 ☐ 尿 ☐ 母乳 ☐ 単核球 ☐ EBV不死化細胞 ☐ 増殖T細胞 ☐ その他の試 () 情報：最大(120,000)人分 ☒ 基本情報 ☒ 調査票情報 ☐ 家系情報 ☒ 検体検査情報 ☒ 特定健康診査情報 ☒ 生理機能検査情報 ☐ がん登録情報 ☒ メタボローム解析情報 ☐ マイクロバイオーム情報 ☒ 認知・心理検査情報 ☐ MRI画像解析情報 ☐ MRI画像情報 ☒ 全ゲノム解析情報 (全て) ☐ 全ゲノム解析情報 (特定領域) ☒ SNPアレイ情報 (全て) ☐ SNPアレイ情報 (特定領域) ☒ その他の情報 (トランスクリプトーム情報、メチル化情報) ☐ 岩手の試料・情報を使用する				
期待される成果	本研究により、MASLDの疾患進展に関与する新規リスク遺伝子を解明することで、MASLDの早期発見およびハイリスク群の予測精度向上が期待され、個別化医療や地域保健政策への応用につながる重要な成果が得られると期待されます。				
倫理審査等の経過	2026年9月 大阪大学医学系研究科倫理審査委員会承認(中央一括審査)				
倫理面、セキュリティ面の配慮	倫理審査で承認された研究計画にしたがって研究を実施します。セキュリティ確保のために、データはToMMoのスーパーコンピュータで厳密に管理します。				
その他特記事項	この研究は大阪大学ヒューマン・メタバース疾患研究拠点の研究費により実施します。				
(事務局使用欄)					